鷹南学園三鷹市立中原小学校　令和８年度　【６年生】　授業改善推進プラン

	R7授業改善推進プランの検証	学習状況の現状と課題	指導方法の課題と授業改善策
国語	目標を持たせた小テストや再テストの徹底により漢字の定着率は向上し、文章構成を意識したモデル提示によって記述への意欲が高まった。一方で、習得した漢字を他教科や日常の記述で主体的に活用することや、文章全体の要旨を捉えて要約する力には個人差が残った。	漢字や語句等の知識は概ね定着しているが、「読むこと」や「記述式」に課題が見られる。文構成の理解や自分の考え・理由を論理的に表現・記述する力に課題がある。	単元導入時に見通しをもたせ、「知る・使う・振り返る」の語彙定着サイクルを徹底する。複数の叙述や資料を比較・整理できる思考ツール（ワークシート等）を活用し、根拠を明確にした上で文章を構成・記述する指導を行う。また、児童相互の対話による推敲場面を位置付け、記述力の向上を図る。
算数	プロジェクターによる視覚的な提示や考えを交流する対話的な学びにより、問題場面の理解が深まり学習意欲の向上が見られた。しかし、小数のかけ算・わり算など計算の習熟や、立式の根拠を論理的に説明・表現する力には依然として学力差が見られる。	計算等の基礎知識は定着しているが、「図形」や「考え方・記述式」に課題が見られる。特に図形の性質理解や数量関係を図・言葉を用いて筋道立てて説明・表現する力に課題がある。	学習用タブレット端末やプロジェクターを活用し、問題場面の数量関係や図形の構成要素を視覚的に可視化する。少人数指導や習熟度別の個別学習で基礎・基本の定着を図りつつ、なぜその式になるのか根拠を図や言葉の式で説明し合う対話的・協働的な活動を位置付け、論理的な思考力・表現力を育てる。
社会	導入での疑問の視覚化やワークシートの工夫により、意欲を持って調べ学習に取り組む姿勢が育った。一方で、複数のグラフや統計資料から共通点・相違点を読み取り、自分の言葉で多角的に考察・論述する力の育成には継続的な指導が必要である。	歴史や政治、地域の産業など興味のある事象に対する関心は高く、調べ学習には主体的に取り組めている。しかし、複数のグラフや写真、年表等の資料を比較・関連付けて読み取ったり、調べた内容を基に歴史的事象の背景や現代社会の課題について自分の言葉で多角的に考察・表現したりする力には課題が残る。	単元の導入で学習問題とゴールイメージを明確にし、探究の見通しをもつ。複数の関連資料を提示して共通点や変化を読み取るなどワークシートの工夫を行い、単に調べるだけでなく「分かったこと・考えたこと」を整理する。児童同士で比較・検討し合う交流の場を毎単元設定し、思考を深めさせる。
理科	予想・実験・考察の流れを意識させたノート指導や対話の時間の確保により、実験結果を整理して発表する力が高まった。しかし、得られた結果を既習事項や生活体験と結び付け、科学的な根拠をもとに結論を導き出したり応用したりする力に課題が残る。	観察や実験には意欲的であり、理科用語や基礎的な知識、実験器具の扱いなどは概ね身に付いてきている。しかし、得られた実験結果の数値や変化を既習事項・日常生活と結び付けて規則性を見出したり、科学的な根拠をもとに予想・仮説の妥当性を推論・考察して結論を導き出したりする力には依然として課題がある。	単元を通して理科の見方・考え方を意識し、「問題・予想・検証・考察」の流れを明確にしたノート指導を徹底する。日常生活との関連を問いかけ、根拠のある仮説をもたせる工夫を行う。得られた結果を整理・比較し、小グループで科学的根拠を基に多角的に議論・説明し合う場を確保して考察力を高める。
音楽	音色の違いを体験する活動や知識・技能を試す協働学習を取り入れたことで、互いの良さを認め合いながら合奏等に取り組む姿が見られた。一方で、既習の知識や技能を自らの思いや意図と結び付け、表現を主体的に工夫する力には個人差がある。	器楽演奏や合唱など前向きに取り組む児童が多い一方で、身体や声の成長・変化に伴い、歌唱活動で思いを表出することに消極的な児童が見られる。また、音楽を形づくる要素（旋律・強弱・音色など）の知識はあるものの、それらを自らの思いや意図と関連付けて主体的に表現を工夫する力には個人差が大きい。	既習の知識や技能を振り返る場面を設定し、音色の違いやパートの役割・重なりを意識できるスモールステップの活動を取り入れる。鑑賞活動等で感じ取ったことを言葉で表す手だてを工夫し、感性と理性を往還していく。互いの表現のよさを認め合い、安心して自己表現に挑戦できる学習環境を整える。
家庭科	ペアワークや動画教材を活用したことで技能差が補われ、家庭での実践を促す課題設定により家族の一員としての自覚が高まった。しかし、実習で学んだ基礎的な技能や知識を、生活の課題解決に向けて独創的・主体的に応用する力には課題が残る。	調理実習やミシン縫いなどの実習に楽しく意欲的に取り組んでおり、基礎的な知識・技能の定着が見られる。一方で、身の回りの生活を家族や地域との関わりの中で見つめ直したり、習得した知識や技術を活用して家庭生活の課題解決に向けた工夫や自発的な実践を行ったりすることには課題が残っている。	献立作成やものづくりにおいて、学校の栄養士の講話や家庭での生活体験を想起するなど、実生活と直結したリアリティのある課題を設定する。手順動画やペアワークを活用して技能差を補い、作業の見通しをもつとともに家庭での実践課題を位置付け、家族の一員としての自覚と実践力を高める。
図画工作	参考作品や技法例の豊富な提示と鑑賞活動の組み合わせにより、見通しをもって意欲的に制作に取り組む児童が増えた。一方で、手本の模倣から一歩踏み出し、用具や材料の特性を生かして自分の思いや発想を深めて表現する力に課題が見られる。	題材への関心が高く、手順を理解して最後まで粘り強く制作に取り組む児童が増えている。しかし、参考作品や手本の模倣にとどまる傾向があり、用具や材料の特性を深く捉えて自分ならではの造形的な発想を広げたり、意図をもって独自に工夫しながら表現したりする力には依然として個人差が見られる。	中学校美術への接続を見据え、多様な用具の使い方や技法の参考作品を視覚的に提示し、作業の見通しをも示す。制作の途中段階で互いの工夫や発想のよさを交流・鑑賞し合う場を意図的に設定する。個別に対話的な声かけを行い、児童自らがテーマや材料のよさを生かして工夫を深められるよう促す。
生活			
体育	準備の効率化による運動量の確保やタブレットでの動作確認により、自己の課題を意識して技能向上を目指す児童が増加した。一方で、児童間における運動技能の差や、主体的な運動習慣の二極化の解消、児童相互の関わり合いの深化が今後の課題である。	運動やゲームに意欲的に取り組む姿が見られる一方で、基礎的な運動経験や技能の個人差が大きい。また、活動自体に没入するあまり自己の課題解決の視点が散漫になったり、勝ち負けに固執して公正な態度や仲間と協力して作戦を工夫・遂行するスポーツマンシップの定着に課題が見られたりする児童がいる。	単元の目標を明確にし、学習用タブレット端末を活用して自他の動きを動画・静止画で客観的に確認・振り返る活動を取り入れる。良い動きのポイントを全体で共有し、ペアやグループで教え合い・認め合う場を設ける。作戦の工夫や仲間のよさを認め合う声かけを徹底し、運動の楽しさが実感できるようにする。
外国語	単語や文字を丁寧に書く機会を設け、目的意識をもったやり取りを重視したことで、コミュニケーションへの意欲や安心感が高まった。一方で、四線へのアルファベットの正確な筆記の定着や、既習表現を用いて自分の考えを即興的に伝える力には課題が残る。	ALTとの対話やゲームに親しみ、英語でのコミュニケーションを楽しむ姿勢は育っている。一方で、日常会話で既習表現を活用して即興的に伝え合うことや、四線上に大文字・小文字を正しくバランスよく書くこと、文構造を理解して書き表すことには個人差が大きく、基礎的知識の定着に課題が残る。	毎時間のスモールトークや短時間でのやり取りを反復し、英語を話す必然性のある言語活動を日常的に設定する。四線ノートを用いた視覚的で丁寧な筆記指導を継続する。授業終末にはルーブリックを用いた振り返りを行い、身に付いた表現やコミュニケーションの定着を図る。
道徳	葛藤場面での発問やペア・グループでの対話を位置付けたことで、物事を多面的・多角的に捉え、他者の考えを受け止める姿が広がった。しかし、深めた考えや道徳的価値を、日常の集団生活や他教科の中で自ら実践・行動に移す力には課題が残る。	教材の読み取りを通して登場人物の心情を捉え、友達の多様な考えを聞いて理解を深める態度は身に付いてきている。しかし、資料の出来事を自分事として捉え直し、自己の生き方や行動を見つめることには課題があり、授業で深めた道徳的価値を学校生活や日常の行動として主体的に実践する力が不足している。	心情が揺れ動く葛藤場面や多面的な見方ができる発問を工夫し、自分事として考えを深められる導入や展開を行う。児童の発言をつなぎ、考えを比較・共有する対話的な活動を位置付ける。書き溜めたワークシートで自己の変容や成長を振り返り、日常や他教科の実践へと意識をつなげる。